

社会福祉法人
伊方社会福祉協会
特別養護老人ホーム

つわぶき荘



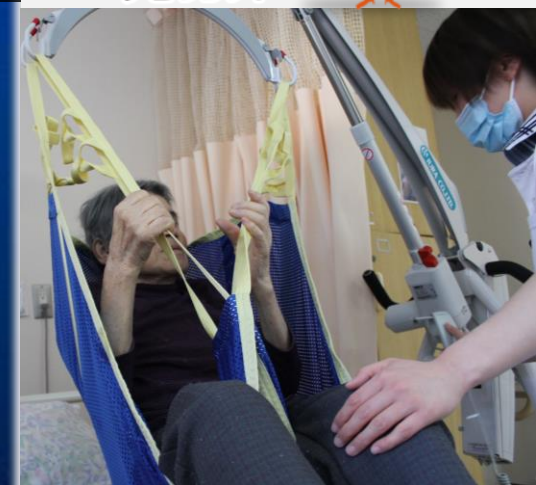
ICTを導入して職員の働きがいが向上した取り組み

チームケア ・ チームアプローチ

介護主任 菊池 三生

最西端で最先端ケアへ

伊方町
イメージキャラクター
サボツディー
チビサボツディー



伊方町の紹介

(令和4年4月現在)



- 人口 8,597人
- 65歳以上の人口 4,152人
- 高齢化率 48.3%

(県下で2番目)

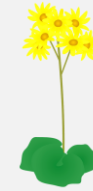




経営理念

「つわぶき荘は、地域の人たちが人格を尊重し大切にされて生活していると、感じるまちづくりに努めます」

つわぶき荘の紹介



愛媛県 西宇和郡 伊方町 湊浦 開設：平成10年 5月

- ・ 特 養 60床
- ・ ショートステイ 10床
- ・ ケアハウス 30床

居宅支援事業所を有する施設です
(三崎地区) 小規模特養・グループホーム

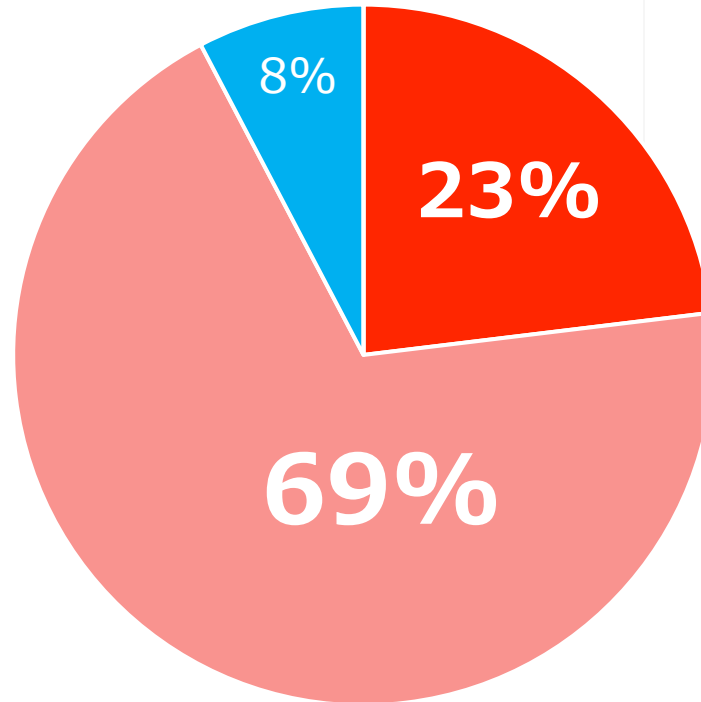
取組の流れ（全体像）

P	手順 1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 取組意義、プロセス、重要ポイントなどの説明と対話 現状課題感などのヒアリング実施 事業所内でのチーム組成 具体的な進め方、スケジュール計画 現状把握アンケート、各種評価の実施（アンケートの実施準備） アンケートデータに基づく分析結果 因果関係図で見える化した課題の解釈 現場との対話 優先取組テーマについての深掘り対話、実施内容の検討
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう	
	手順 3	実行計画を 立てよう	
D	手順 4	改善活動に 取り組もう	<ul style="list-style-type: none"> 改善活動の段階的实施 業務整理・解釈・Reデザイン、各種業務工程とテクノロジー活用との相性検証
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> 期待していた効果（仮説）に対する、効果検証 振り返りミーティング実施（良かった点、今後改善する点等の検討）
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう	<ul style="list-style-type: none"> うまくいかなかったことに対しての実行計画の見直し



「トイレ介助」業務は大変かどうか

- 92%がトイレ介助業務が大変であると回答した

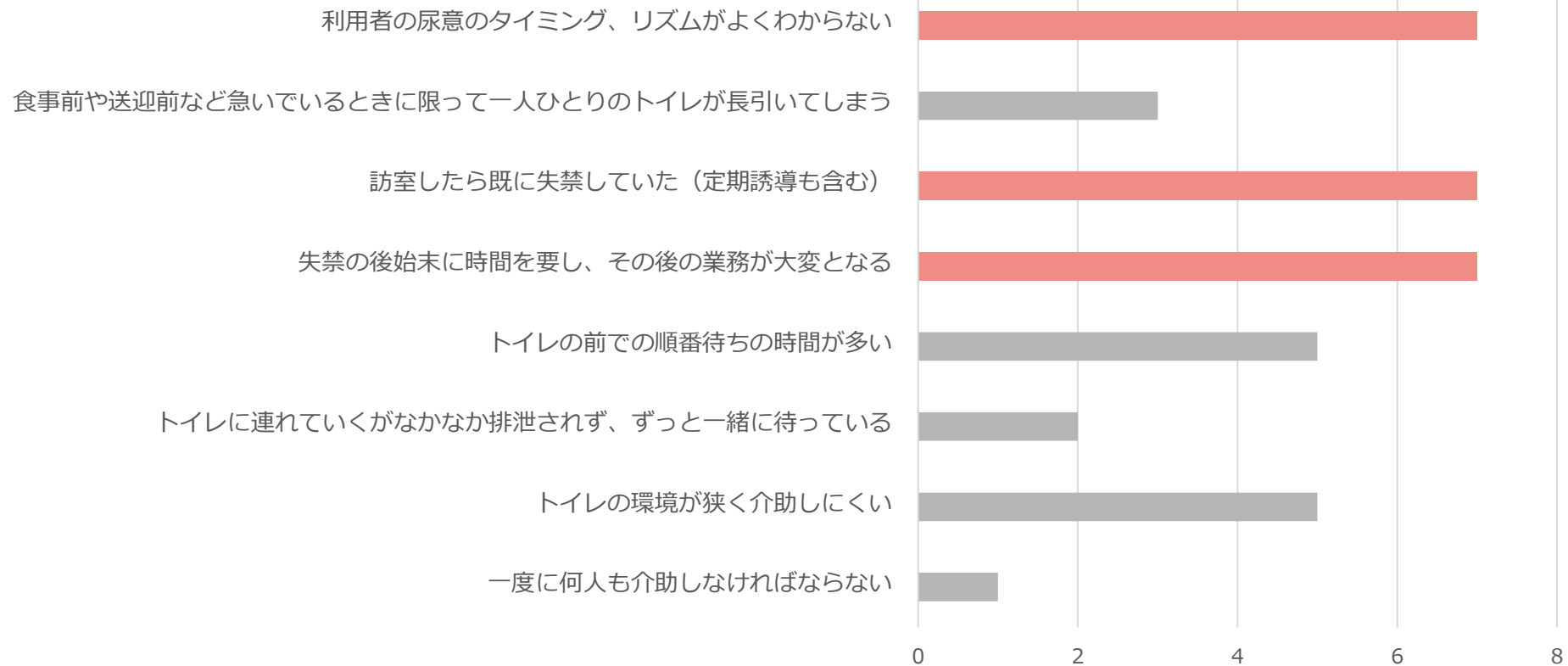


- とても大変である
- 大変である
- あまりそうは思わない
- そう思わない



トイレ介助の課題について

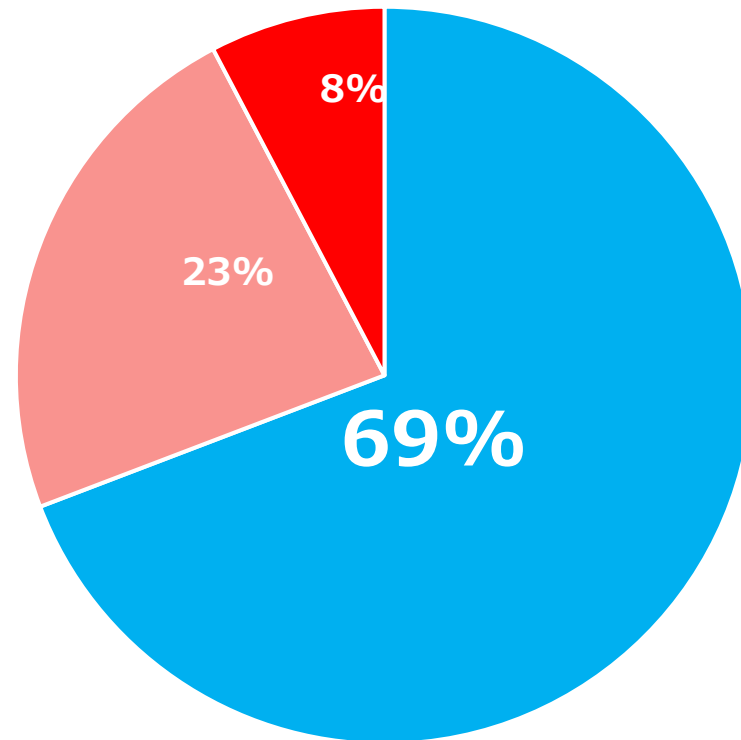
- 利用者の尿意のタイミング、リズムがよくわからないという回答が多かった
- 定期誘導や訪室で既に失禁していることも多く、その後の始末に時間を要していることがわかった





Dfreeの導入について、どう感じているか

- 7割は前向きに考えているが、3割が抵抗があることがわかった



- とても導入したい
- 興味はあるので前向きに考えたい
- 少し抵抗があり慎重に考えたい
- かなり抵抗がある



「現場課題を見える化したこと」や「現場と対話をしたこと」などについてリーダーまたは現場スタッフが 得た気づき

- 予想通り「大変である」との意見が多かった。毎年のアンケート結果にも上位であがっている（改善が進んでいない領域でもあった）
- 「働きがい」を感じている職員が意外にも多いと感じる人もいれば、少なく感じているという声もあった「業務が大変」「業務でいっぱいいっぱい」業務についての意見が多くあったそよかぜユニットは他部署に比べ利用者人数が多い（経管栄養の利用者もいる）ユニットの導線も長い
- 排泄についての課題については、夜間の尿量が多い・夜間の失禁が多い・夜間は衣類の交換や寝具交換があり時間を要している。その後始末が業務負担になり他業務にも影響がでてくる。朝方の職員の人員が少ない時間帯での漏れが負担になっていた
- Dfree導入について期待もありながら、効果があるのかと不安も感じている。実施しながら評価



決定した取組テーマと内容と目指す目的

■ 取り組みテーマとその背景

- 現場の状況をヒアリングした結果から「トイレ介助」が課題となっていることがわかり、今回業務整理と、**排尿予測デバイス「Dfree」の導入**に取り組むこととした

■ 目指す目的

- 定時誘導ではなく利用者個人に合った適切なトイレ介助を提案していく ⇔ おむつ外しへ
(対象者の決定)

主な実施事項・方法

1. 排泄に課題のある対象者(Dfree活用対象者)を1人決定し、排泄記録チェックシートを活用しながら現状のトイレ介助の整理・解釈を実施
2. 業務工程整理のプロセスにおいて現場と対話を重ね、トライ&アクションを繰り返す
またアドバイザーとも対話を重ね、次なるアクションポイントの学びを得る
3. Dfree活用で対象者の排尿のリズムを把握し、適切なトイレ介助を実施



スケジュール

大項目	中項目	小項目 (具体的にやること)	担当	時期	具体的日程	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	改善活動の準備	初回訪問 (顔合わせ、本事業における主長の共有、本事業について目視し、現状課題の聴取、進め方などの打ち合わせ)	TRAPE-経営層-リーダー	2日間	10月17日～10月18日						
		今回実施するフロア・Pリーダ-を決める	経営層	12日間	10月18日～10月30日						
		メールアドレスを聞き、slackに招待する	TRAPE	12日間	10月18日～10月30日						
		slackにログインする	Pリーダ-	12日間	10月18日～10月30日						
		初回訪問のまとめを作成	TRAPE	12日間	10月18日～10月30日						
		初回訪問のまとめを確認する (内容に問題がないかを確認し、気になることがあればslackで対話する)	経営層-Pリーダ-	12日間	10月18日～10月30日						
2	現場環境の見える化 因果関係図の作成	スケジュール表の作成	TRAPE	17日間	10月18日～11月4日						
		スケジュール表を確認する	経営層-Pリーダ-	4日間	11月4日～11月7日						
3	課題の絞り込み 整理分析	本Pの目的や意義について経営層から現場へ語りかけてもらう	経営層	23日間	10月18日～11月9日						
		webアンケートの実施	職員	5日間	10月25日～10月29日						
		職員の現状を把握するwebアンケートの実施	Pリーダ-現場	6日間	11月10日～11月16日						
4	実行計画を作成	webアンケートの集計結果とその見方を提示 (因果関係図) し、対話するポイント (解釈など) をPリーダ-に伝える	TRAPE	2日間	11月17日～11月18日						
		因果関係図から見てきた自分達の現場の状況 (課題) や課題と課題の関係性についてPリーダ-と現場で対話する (★) 特に、因果関係図の項目について深掘りし、その中から、自分達が取り組むべき優先順位の高い業務をえらぶ。 対話した内容/出た声/気づきなどを対話シートにまとめ、Pリーダ-は slackで提出する	Pリーダ-現場	8日間	11月19日～11月27日						
		導入業務における現状について定量 / 定性評価を行うために、定量/定性評価項目を提示する →Webアンケートを作成する (途中の評価プロセスがアナログで収集することはある)	TRAPE	3日間	11月24日～11月26日						
		定量/定性評価WebアンケートについてPリーダ-と共有	TRAPE-Pリーダ-	2日間	11月26日～11月27日						
		定量/定性評価WebアンケートをPリーダ-は現場と共有、実施	Pリーダ-現場	5日間	11月28日～12月2日						
		定量/定性評価測定結果をまとめ、解釈を作成する	TRAPE	3日間	12月3日～12月5日						
		定量/定性評価測定結果をまとめ、解釈をPと共有する	TRAPE-Pリーダ-	6日間	12月1日～12月6日						
		定量/定性評価測定結果についてPリーダ-は職員と対話しさらに解釈を深める 対話した内容/出た声/気づきなどを対話シートにまとめ、Pリーダ-は slackで提出する	Pリーダ-現場	7日間	12月7日～12月13日						
5	業務機卸の実施	業務機卸における実行計画のたたき台を作成する (手順、主担当、必要なもの、機器、想定日程など含む)	TRAPE	3日間	12月11日～12月13日						
		業務機卸における実行計画のたたき台をPリーダ-と共有	TRAPE-リーダー	6日間	12月13日～12月19日						
		業務機卸における実行計画のたたき台をPリーダ-は現場と共有し、対話する 対話した内容/出た声/気づきなどを対話シートにまとめ、Pリーダ-は slackで提出する	Pリーダ-現場	10日間 (年末年始含む)	12月20日～12月29日						
6	活動を振り返る	現在の業務工程を出す (大項目-中項目-小項目というように) 各担当ごとの業務フローがわかるように見る ・人に業務が帰属している場合はその業務に関わっている各職員にどのような業務工程で日々取り組んでいるかを聞く Pリーダ-と職員は対話を繰り返し行う 対話した内容/出た声/気づきなどを対話シートにまとめ、Pリーダ-は slackで提出する	Pリーダ-現場	5日間	1月3日～1月7日						
		業務のSSの仕分けを行う ・小項目の中で必要と不必要を仕分けする ・仕分けのための基準動作を作る Pリーダ-と職員は対話を繰り返し行う 対話した内容/出た声/気づきなどを対話シートにまとめ、Pリーダ-は slackで提出する	Pリーダ-現場	5日間	1月8日～1月12日						
		業務のSSの整備を行う ・小項目の中で必要とされたものについてさらなる工夫がアナログでできるかについてPリーダ-と職員で対話する ・小項目の中で必要とされたものについてテクノロジーの方をがたい項目についてPリーダ-と職員で対話し、欲しいテクノロジーの要件を定める Pリーダ-と職員は対話を繰り返し行う 対話した内容/出た声/気づきなどを対話シートにまとめ、Pリーダ-は slackで提出する	Pリーダ-現場	7日間	1月13日～1月19日						
		定めた業務工程の要件に合うテクノロジーを探す (性能・スペック分析を行う) 自分達の選んだ業務をよりよくするためのテクノロジーの検討について対話する	TRAPE-リーダー	3日間	1月19日～1月21日						
7	改善活動について発表する	3で実施した定量/定性評価項目を提示する 3と同様のWebアンケートを活用する (途中の評価プロセスがアナログで収集することはある)	Pリーダ-現場	7日間	1月22日～1月28日						
		定量/定性評価WebアンケートをPリーダ-は現場と共有、実施	TRAPE	2日間	1月27日～1月28日						
		定量/定性評価測定結果をまとめ、解釈を作成する	Pリーダ-現場	5日間	1月29日～2月2日						
		定量/定性評価測定結果をまとめ、解釈を作成する	TRAPE	2日間	2月3日～2月4日						
		定量/定性評価測定結果をまとめ、解釈をPと共有する	TRAPE	4日間	2月5日～2月8日						
		定量/定性評価測定結果についてPリーダ-は職員と対話しさらに解釈を深める 対話した内容/出た声/気づきなどを対話シートにまとめ、Pリーダ-は slackで提出する	Pリーダ-現場	5日間	2月9日～2月15日						
		事業報告レポート作成の用意をする	TRAPE	3日間	2月1日～2月3日						
		過去に作成してきた各種シートとデータを参考に事業報告レポートを作成する	Pリーダ-	14日間	2月6日～2月24日						
		成果報告会に向けたまとめとスライド作成の雛形を用意する	TRAPE	2日間	2月4日～2月5日						
		成果報告会に向けたまとめとスライド作成を行う	Pリーダ-	13日間	2月6日～2月23日						
発表者は発表に向けて発表の練習を行う	Pリーダ-	4日間	2月20日～2月23日								
発表	Pリーダ-	1日間	2月24日								



現在のトイレ介助業務について排泄ケア記録表で整理

※記載内容を確認し、漏れ不明等なければチェック

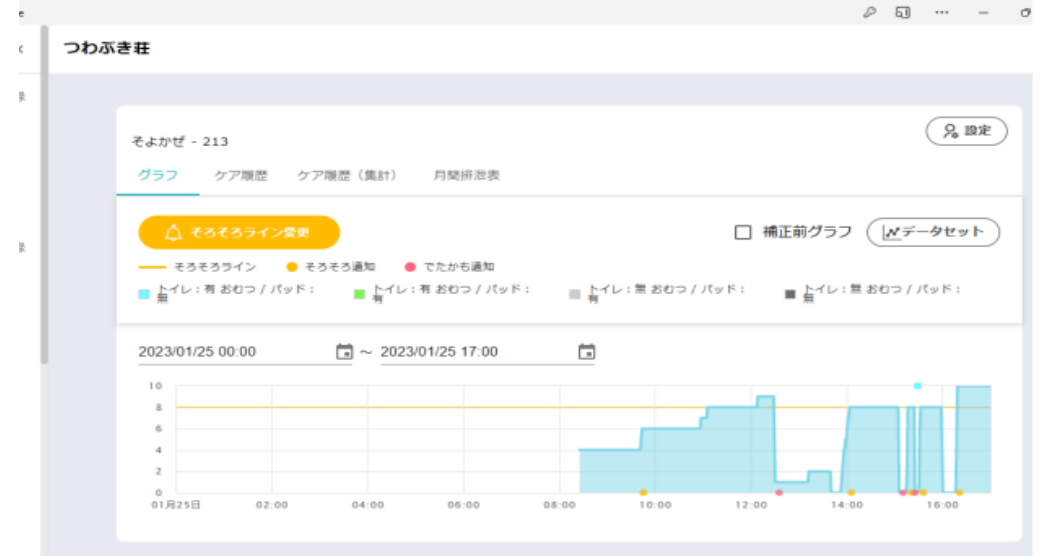
	※正の字で回数を記録する					例: 1/3	例: 2名で、15分ずつ、〇〇も実施	不穏など利用者さまの状況や 気づいたことをメモ	担当した スタッフ名
	トイレ 誘導回 数	空振り 回数	尿意確 認 訪室回	オムツ内 排泄回 数	尿漏れ 回数	尿量	排泄ケアに要した人数・時間 (尿漏れ後の対応を含めて)		
7:00~									
8:00~	1回					普通	2名 計約5分	食事中トイレ訴えありバット内 (-) 車椅子に手を伸ばされていた。(排便あり)	梶原 藤原
9:00~									
10:00~									
11:00~									
12:00~	1回					普通	2名 5分以内		藤原 堀江
13:00~									
14:00~									
15:00~									
16:00~									
17:00~									
18:00~									

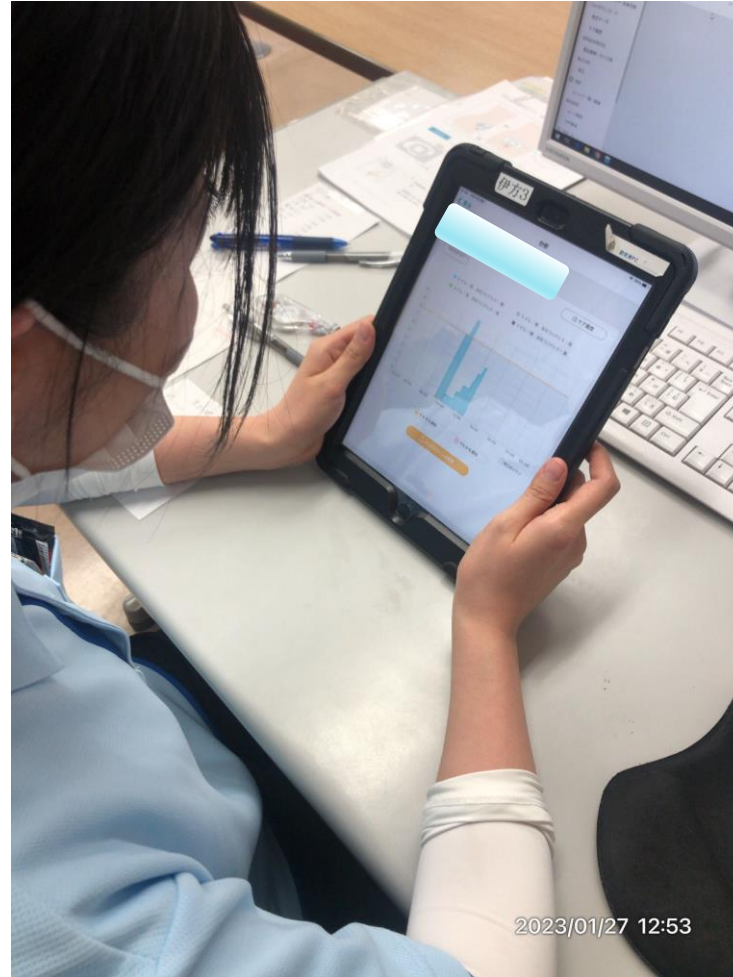
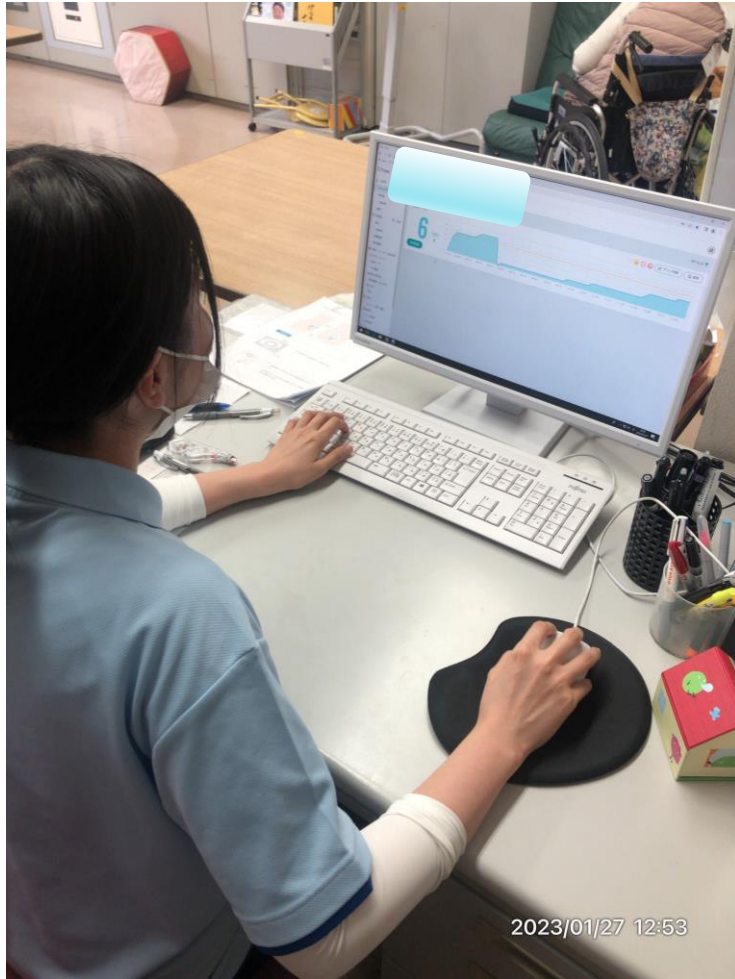
1週間以上実施したが、空振りや尿漏れはほとんど見られなかった

▶ Dfreeを活用して、定時誘導ではなく利用者個人に合った適切なトイレ介助を提案していくためにを旨とした



Dfreeを活用して、定時誘導ではなく利用者個人に合った適切なトイレ介助を提案





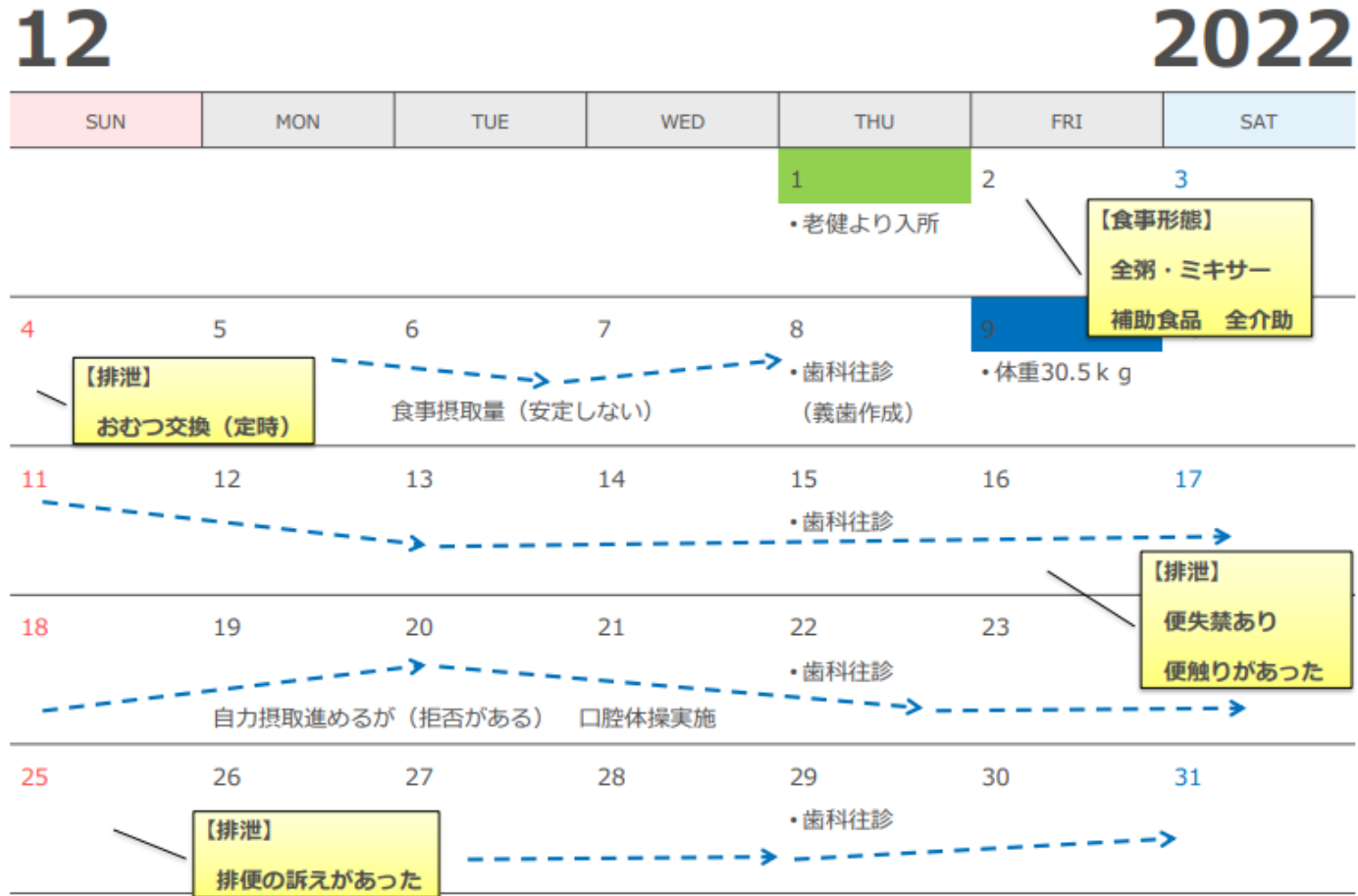
Dfreeを活用している様子

勉強会の様子



利用者個人との向き合いを行なっていく中で利用者の現在の食事形態、食事量、水分摂取量、活動量についても把握できるようになりアプローチ内容の見直しを行うようになった

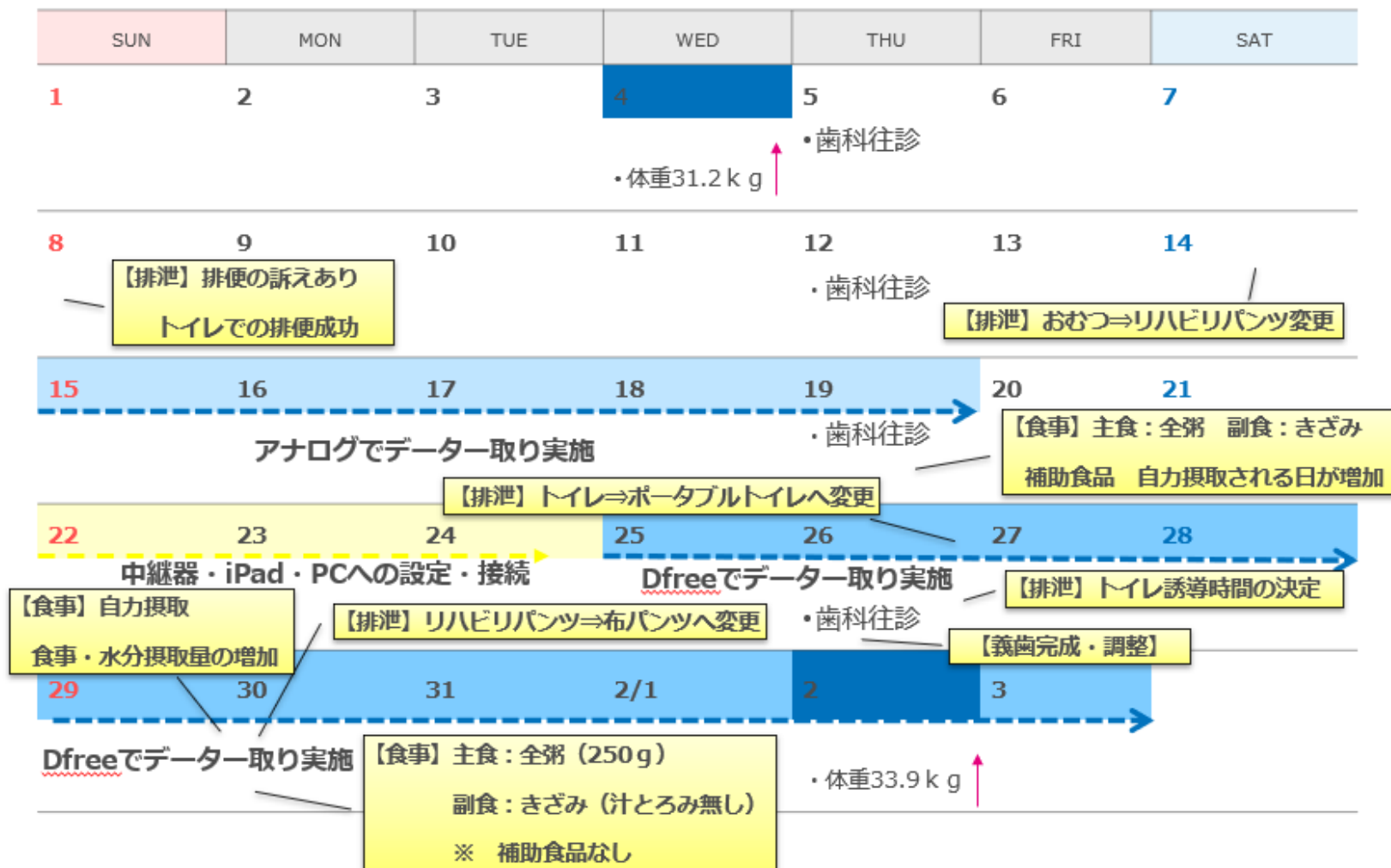
- 1) 離床時間の確保を実施
- 2) しっかりとした排泄に繋げるには「口から食べる（摂食）」について把握し取組んだ
- 3) 食形態に問題のある様子が伺え歯科医師と相談し義歯作成・機能的な所も確認してもらった





1

2023





取り組みの中で、新たにチャレンジしたこと、考えるようになったこと

- 時間を優先して誘導をしていたのが、**利用者のタイミングを考えるようになってきた**
- 出来るだけ利用者が**不快な気分にならないように対応出来るきっかけになればと考えられるようになった**
- 今回使用した方は、トイレよりPトイレの方が危険性が低く介助も排泄も出来たので、トイレで急がせることもなかった。**自分で便意ある際は訴えることが増え、尿意も聞けば答えて頂けるようになった**
- 排泄だけでなく**食事や本人の活動量にも目を向けるようになった**

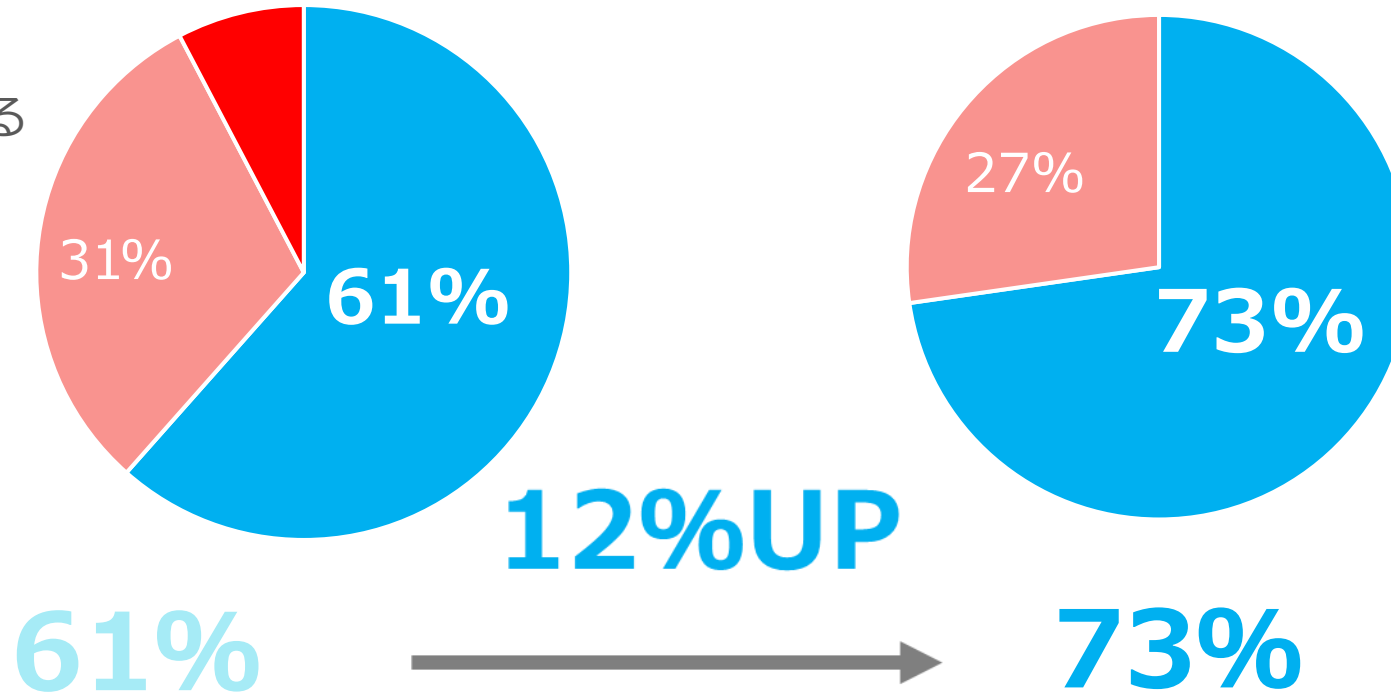


あなたは日常仕事をしていて“やりがい”をどれくらい感じるか

改善活動実施前

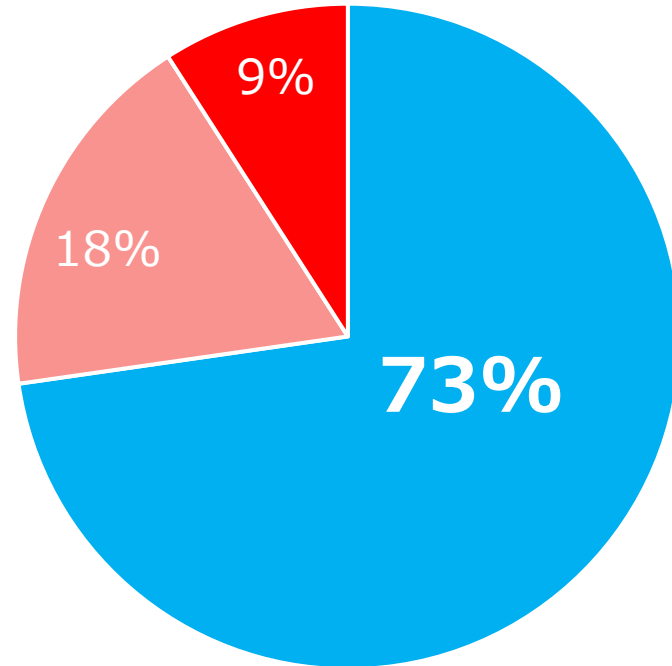
改善活動実施後

- とてもよく感じる
- ある程度感じる
- あまり感じない
- 全く感じない





今後のD-free活用イメージ



- 多くの利用者に活用していきたい
- 今回の対象者以外の利用者にも数人活用していきたい
- 今回の対象者以外にはあまり使いたくない
- 今後使いたくない

73 %

の方がD-freeを今回の対象者以外にも
数人活用していきたいと考えている



今回の取り組みを通して職員から出た気づきや学びなどの声

- 排泄のタイミングが何となく分かってきた事から、その方だけが誘導時間を変え、忙しい時間帯の業務を少し減らせることにも繋がられている(まだ相談中の時間帯もある)
- 利用者本人の潜在能力を活用できたり、食事量や食事形態アップに繋がるきっかけになったと感じた
- 取り組みを行なっていくうえで、職員間のコミュニケーションが増えたのではないか
- 利用者の様子を以前よりもよく観察する機会が増えたように思われる
- 通知が多く誘導回数が増えたときはとても負担に思い大変だった。だが本人がトイレに座り排泄があったときは嬉しかった
- アラームの鳴る頻度はストレスに感じたが、利用者を知るという面ではかなり役に立つものだったなと思った
- 排泄リズムを知ることで忙しい時間帯の業務を減らしたりずらせたり出来るのはかなり有難い事でもある
- 排泄前の行動が分かる時があった



手順1～4の取組プロセスで、苦勞したこと、工夫したこと、上手くいったこと、いかなかったこと

手順1（改善活動の準備）以前からの施設の取り組みで試験的に導入した介護ロボットについて結果を集約し介護職員の負担軽減、業務の効率化を図るために現場レベルの実現化を目指していた。そこで「Dfree（排泄予測デバイス）を活用することで最適な排泄ケア（環境）を実現」と事業計画に取り入れ、コスト管理の明確化や（ユニット単位での発注・管理）排泄用品の見直し等から実施を進めていた。そのような状況だったこともありプロジェクトへの周知や目的を共有していくことについては、スムーズに進んだ

手順2（現場の課題の見える化）対象者を設定しその方についての課題や、その課題を分類し繋げていく作業について、普段ケア会議の中で何気なくしている対話をしっかりと文章に落とし絞り込んでいくことの重要性について気付いた。（アナログで排泄チェックシートを埋める）夜間の尿量・夜間の失禁、夜間は衣類の交換や寝具交換があり時間を要していることが分かり、その後始末が業務負担になり他業務に影響がでていることも分かった

手順3（実行計画を立てる）Dfreeの使用方法について勉強会を実施。改善後を皆でイメージし、取り組みを実施する。ユニットメンバーからの意見をもとに対象者の決定はスムーズに行うことができた（新規入所者おむつ外しへ）

手順4（改善活動に取り組む）コロナ禍による一時中断を考えることもあったが、実施できたことは非常に良かった。データーから時間帯を合せていくことで習慣化ができてきた。アラートが鳴るか、上昇したタイミングでトイレ誘導を行うが、アラートが鳴りすぎてトイレ誘導回数が倍も増し介護者への負担・本人への負担も感じられる事があった。実施については状態像が安定した利用者から始めると有効性が理解しやすかったのではないかと感じた。アラートによるトイレ誘導で失禁を未然に防ぐことができた（そろそろ通知をもとにトイレ誘導）

■ 今回の取り組みを通して生み出したこと

- 対象者の朝昼の排泄リズムが把握でき、定時誘導ではなくその方のタイミングでトイレ介助ができるようになった
- Dfreeを導入を通じて、職員が対象者のケア(食事形態、食事量、水分摂取量、活動量など)をより意識するようになったり、職員同士のコミュニケーションが活発になったりした
- Dfreeによって排泄のリズムやタイミングがわかるようになる実感を得た
- 職員の働きがいが増した
- リーダーが業務改善を行うイメージを持つことができた

■ 今後の課題

- 食事量や水分摂取量の変化により、Dfree運用中に排泄リズムが変わり、夜間の排尿が増えた
- 夜間帯にターゲットを合わせて再度排泄における分析をし、仮説を立て、改善に取り組むことが重要だと思っている

不快・苦痛
減少に伴う
BPSDの改善



日常生活の安定
(笑顔が増える)



自立意欲の向上
(言葉・行動)



排泄の自立

トロミあり→トロミなしへ

水分

排泄

体重増加UP

水分摂取量UP

義歯作成

おたけの歯

介護における生産性向上



利用者の可能性を拡大



介護の価値向上

食事

入浴

特浴→椅子浴

全介助→一部介助（洗身）

食形態UP

全介助から自立

ミキサ一食（補助食品付き）→軟飯・刻み食へ

椅子自走

車椅子移乗

コミュニケーション

クラブ

ADL向上

チームケア

その他 生産性向上の取り組み

ユニット単位での発注（おむつ） （スマート化）

- ◇ iPad・PCで注文
- ◇ 各ユニットで必要な物を注文する
（ムリ・ムダ・ムラをなくす）



- ◇ コスト管理（システム）
ユニット単位でのコストの明確化



コスト管理・見直し
職員負担軽減
コストの削減

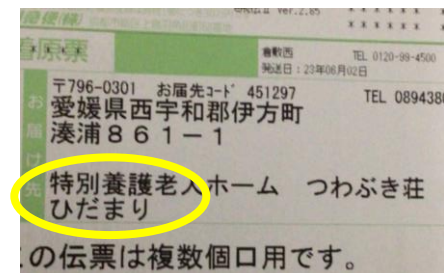


※排泄の自立

マイスター育成



◇ 段ボールのシールに
部署名を記載



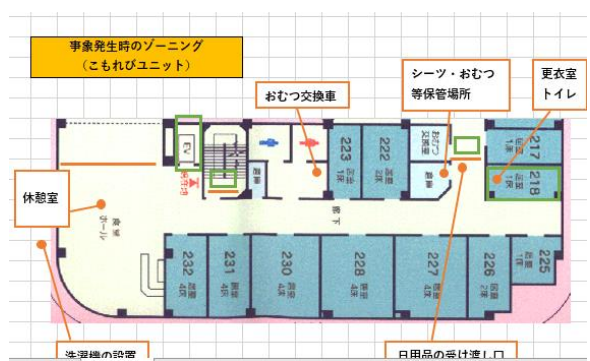
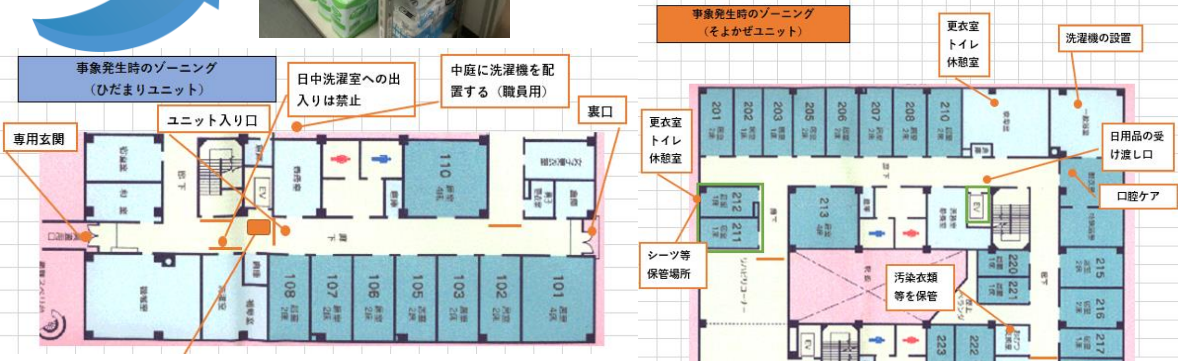
環境
改善



経費
削減



生産性
向上



ご清聴ありがとうございました



**特別養護老人ホーム
つわぶき荘**

※資料に使用した個人写真はご利用者様・ご家族様より承諾を得ています